

マテリアリティ

マテリアリティのリスクと機会については、ウェブサイトをご覧ください。
URL : <https://www.fujikuracomposites.jp/focus/materiality/>



重要課題 (マテリアリティ)	認識する課題		中長期としてのリスクと機会		インパクト マテリアリティ 影響度の度合い(大中小)	フィナンシャル マテリアリティ	2025年度指標 (KPI) (一部について、2025年度以外の年度KPIもあり)	2024年度の 主な取り組みおよび実績	対応する SDGs項目
 コンポジットで 安心・安全・安定した 製品を コンポジットで 新たな イノベーションを	"3 安"と さらなる高みの ものづくり	安心・安全・安定した ものづくりの維持と 原材料の円滑な供給、 および生産性の さらなる向上	リスク	・お客様に対する納期遅延、加工工程中のムダによるGHG排出、 廃棄物発生および資源の浪費	大	小	① サステナビリティに関する 外部評価機関による評価 CDP: 気候変動「B」、水セキュリティ「C」 EcoVadis: 65点以上/100点	① サステナビリティに関する外部評価機関 による評価 CDP: 気候変動「B」、水セキュリティ「C」 【評価: ○】 EcoVadis: 54点/100点 【評価: ×】	  
				・原材料価格の高騰、為替の変動による利益の減少 ・製品の欠陥による賠償負担 ・市場価格の低下による売上・利益減少	小	大	② ISO外部審査および内部監査の実施	② ISO 9001、ISO 14001、ISO 45001、 ISO 13485の外部審査および内部監査 の実施 【評価: ○】	
			機会	・原価低減および生産性向上による利益の増加	小	中	・ものづくりの安定化	・品質パトロールなど品質向上活動の推進 ・生産性向上委員会、小集団活動の実施 ・取引価格の見直し。原価低減活動	
	社会課題解決の ための 技術革新対応	ニーズの多様化に 対する自社固有技術の 応用、イノベーション 創出	リスク	・お客様から開発力がない企業と見なされ新規開発依頼が喪失 ・ニーズの変化による既存製品の売上縮小	中	大	・産学およびスタートアップ企業との連携	・研究開発費: 1,518 億円 (連結) ・次世代製品の開発および量産化。競合し ない製品の開発	
			機会	・エネルギーの効率利用、GHG排出量削減、廃棄物量削減、その 他環境社会へのプラスの影響	大	中		・専門プロジェクトによる開発および拡販 活動	
	知的財産	知的財産の活用と 維持管理	リスク	・出願した特許の他社特許抵触による訴訟問題	小	中	・特許情報共有による新規技術の創出支援	・特許取得件数: 21 件 (国内: 13 件、海外 8 件)	
			機会	・知財マネジメント強化による新製品開発の推進	中	大	・ブランディング強化	・知的財産説明会および定期的相談会の実施	
	DX	各種生産性の向上	リスク	・対応費用の増大、従業員の業務負担増による健康被害	小	大	・DX 導入による業務の生産性向上および 経営のスピードアップ	・DX 推進室を主体とした活動強化	
			機会	・生産効率向上や機能性向上による受注機会の拡大 ・業務効率向上、納期短縮、コスト削減・収益向上、エネルギーの 効率利用、GHG排出量削減、廃棄物量削減	中	大	・ERPやローコード・ノーコードツール導入、 データリテラシー向上		
 環境改善で 新たな価値創造を	気候変動	GHG排出量の削減、 カーボンニュートラル の実現	リスク	・原材料の産出、輸送、当社での加工、配送、工場、事務所の冷暖 房、移動、製品使用後の廃棄などの過程でのGHGの排出	大	大	① GHG 排出量 (Scope1、2) : 2030 年度までに 2013 年度比 46% 削減	① 22.5%削減 【2024 年度時点での評価: ×】	      
				・移行リスクや販売規制による製品需要の低下からの売上減少 ・規制対応のための開発費増、規制対応遅延による信頼低下 ・自然災害の激甚化など物理リスク増への対応のための費用負担増	中	大	② 2050 年までにカーボンニュートラル ③ 再生可能エネルギー由来電力への切替え (2025年度から) ・外部コンサルタント導入による 省エネ活動ロードマップ作成(国内 1 工場)	② 対応中 ③ 準備中(国内のみ) ・電力「見える化」の推進 : 見える化設備を設置(国内 1 工場)	
	循環経済	再資源の活用	機会	・GHG排出量削減や災害対策のための開発要請の増加	中	大			
			リスク	・当社での加工過程での廃棄物発生および処理に伴うGHGの排出 および環境汚染 ・廃棄物処理にかかる費用増	大	大	① 最終処分率: 6.2t 以下(国内のみ) ② 最終処分率: 1% 以下(国内のみ) ③ 廃プラ類再資源化率: 85% 以上 (国内のみ)	① 8.6t【評価: ○】(2024 年度 KPI: 8.8t 以下) ② 0.92% 【評価: ○】 ③ 98% 【評価: ○】	
	生物多様性	化学物質管理	機会	・環境規制解消のための開発要請の増加	小	大			
			リスク	・環境負荷物質による外部市場への拡がり、およびそれに伴う環境 汚染、健康被害 ・環境負荷物質による従業員の健康被害	大	大	・環境負荷物質の使用停止 ・新規に管理対象物質に指定された場合の 調査対応	・環境負荷物質関連情報の適時更新	
		生物多様性の保全	機会	・環境規制解消のための開発要請の増加	小	中			
			リスク	・GHGの排出、環境汚染 ・対応に対して消極的な企業と見なされ、新規取引の停止および既 存取引の縮小	大	中	① 植樹活動の積極参加: 1 回以上 / 年参加 ・30by30目標達成に向けた各種活動の促進	① 福島県南相馬市鎮魂復興市民植樹祭への 参加 【評価: ○】 ・ブルーカーボン促進活動の検討	
			機会	・新たなビジネスチャンスの創出	小	中			

備考) 影響度の度合い

- ・インパクトマテリアリティ【社会環境への影響(自社のバリューチェーンによって社会に与える影響)】: 大(社会に大きな影響を与える)> 中> 小(社会に軽微な影響を与える)
- ・フィナンシャルマテリアリティ【社会環境の変化によって自社が受ける影響】: 大(会社経営に大きな影響を与える)> 中> 小(財務報告に影響を与える)

マテリアリティ

重要課題 (マテリアリティ)	認識する課題	中長期としてのリスクと機会	インパクト マテリアリティ	ファイナンシャル マテリアリティ	2025年度指標 (KPI) (一部について、2025年度以外の年度 KPIもあり)	2024年度の 主な取り組みおよび実績	対応する SDGs項目		
			影響度の度合い (大中小)						
 人と社会に やさしい組織を	ダイバーシティ 人権 人材育成	従業員エンゲージメント 多様な人材の確保と 活用 労働安全衛生の維持 および向上	リスク	- 適正人材不足および労働災害の増加で生産効率が低下、部品（製品）の供給停滞 - 多様性の不足による事業運営の画一化 - 新規開発リソース不足、グローバル人材不足、業務の属人化、メンタルヘルス不調	大	大	① 女性採用比率：30% ② 新卒者の女性採用比率：30% ③ 管理職に占める女性比率：10% ④ 男性社員の育児休業取得率：40% ⑤ 障がい者雇用率 / 法定雇用率以上の雇用人数拡大：2.5% ⑥ 労働災害件数（休業）：0 件	① 37.5% 【評価：○】 ② 33.3% 【評価：○】 ③ 2.0% 【評価：×】 ④ 17.6% 【評価：×】 ⑤ 2.6% 【評価：○】 ⑥ 2 件 【評価：×】 - 労働安全衛生活動の維持向上（安全バトロールなど） - エンゲージメント向上のための調査実施	4 8 5 9 10 11
		多様な働き方の実現による従業員モチベーション向上と優秀な人材の定着 労働災害減少による従業員の安全向上、雇用維持	機会	- 多様な働き方の実現による従業員モチベーション向上と優秀な人材の定着 - 労働災害減少による従業員の安全向上、雇用維持	大	中			
		バリューチェーン	リスク	- バリューチェーン全体に対するお取引先様の人権侵害および調達不能による部品（製品）の供給停滞 - 新規および既存取引の停止 - あらゆるステークホルダーからの信用失墜	大	大	① 公的機関やお客様へのサステナビリティ調査回答対応率：100% ② お取引先様に対するサステナビリティアンケート調査 回答回収率：80%	① サステナビリティ調査、CSR 調査回答対応率：100% 【評価：○】 ② 準備中	
		公正公平な取引から生まれる信頼性の向上	機会	公正公平な取引から生まれる信頼性の向上	大	小			
 コーポレート・ガバナンス 強化を	ガバナンスと リスク管理の 強化	ガバナンス強化 適切な情報開示、 透明性の確保および ステークホルダーとの コミュニケーション	リスク	大	中	① 重大なコンプライアンス違反件数：0 件 ② サステナビリティ関連案件の取締役会への報告：2 回 / 年 ③ コンプライアンス研修実施率：100% ④ 情報セキュリティリスクをはじめとした各種リスクへの対応	① 0 件 【評価：○】 ② 2 回 / 年 【評価：○】 ③ 89.6% 【評価：×】 ④ リスクマネジメント委員会を中心にリスク洗い出しの見直し実施・情報セキュリティ推進室の設置	8 16 17	
		法令遵守の徹底化と リスク管理の強化	機会			情報セキュリティリスク対策強化および BCP 強化対応による信頼向上（企業価値の向上）	- 取締役会および経営会議のアジェンダ再設定 - 実効性評価の第三者機関の関与		

備考) 影響度の度合い

- ・インパクトマテリアリティ【社会環境への影響(自社のバリューチェーンによって社会に与える影響)】：大(社会に大きな影響を与える)>中>小(社会に軽微な影響を与える)
- ・ファイナンシャルマテリアリティ【社会環境の変化によって自社が受ける影響】：大(会社経営に大きな影響を与える)>中>小(財務報告に影響を与える)